８ 消 安 第 4543 号
令和８年 10 月 30 日

別記各関係団体の長　殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

薬剤耐性（AMR）対策推進月間（11 月）における取組について

薬剤耐性（AMR）対策については、令和５年４月に決定・公表された現行の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）」において、畜産分野における抗菌薬の使用量削減の具体的な数値目標が定められるなど、実効性のある取組の一層の強化が求められています。このことを踏まえ、皆様方には、抗菌薬の慎重使用・適正使用の取組を推進するよう、貴会会員への周知・指導をお願いしているところです。

薬剤耐性（AMR）対策の推進には、国民の理解が重要となるため、政府としては、毎年 11 月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」（以下「推進月間」という。）に位置付け、関係省庁が連携し薬剤耐性（AMR）に関する知識や理解を深めるための全国的な普及啓発活動を展開しています。

今年度の推進月間における当省の取組は、以下のとおりですので、これらの情報発信や取組について御承知いただくとともに、推進月間中の貴管下における普及啓発活動に御活用くださいますよう、よろしくお願いします。

・SNS を用いた情報発信：動物分野（農林水産省）の取組に関する内閣感染症危機管理統括庁公式Ｘ（別紙１）
・農林水産省農業担い手メールマガジン及び e-普及だより（別紙２）
・「2026 動物感謝デー」（11/14）における普及啓発展示（別紙３）
・当省「消費者の部屋」（11/30～12/４）における普及啓発展示（別紙４）

また、現行のアクションプランが４年目を迎えた現在における動物分野の薬剤耐性（AMR）の状況について、理解を深めていただくため、以下の参考資料を添付します。

・現行の薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果指標（畜産分野の抗菌薬使用量及び薬剤耐性率）に対する取組（別紙５）
・愛玩動物分野の薬剤耐性モニタリング結果に関するリーフレット（別紙６）

これらの資料についても、関係者への情報提供や、動物用の抗菌薬の適正使用・慎重使用に関する普及啓発に御活用ください。

別紙1

動物分野（農林水産省）の取組に関する内閣感染症危機管理統括庁公式 X

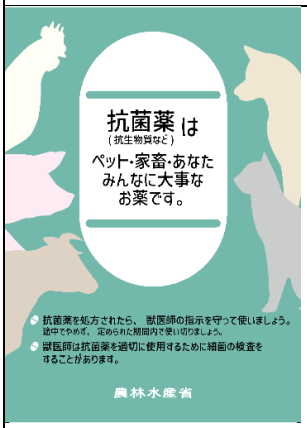
- 11 月 6 日配信予定分

【11 月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間】
ペットのご家族の皆様へ
ペットに処方される抗菌剤を正しく使えていますか？
処方された抗菌剤は獣医師の指示どおり使用して、ペットとあなたの健康を守りましょう！
----------分割連続投稿----------
ペットでの AMR 対策について、動画で紹介しています！
https://www.youtube.com/watch?v=14MArclx5Yc
#農林水産省、#効くを未来へ



- 11 月 13 日配信予定分

【11 月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間】
畜産生産者の皆様へ
抗菌薬は、家畜の健康を守り、良質な畜産物を安定的に生産するために必要不可欠です。
一方、抗菌薬を不適切に使用すると、薬剤耐性菌が増加し、家畜や人の治療を困難にする可能性があります。
----------分割連続投稿----------
かかりつけの獣医師に相談し、今一度抗菌剤を適切に使用できているかを見直してみましょう。
畜産分野の薬剤耐性対策について、動画で紹介しています！
https://youtu.be/g_aV3SG8Z-g
#農林水産省、#効くを未来へ



別紙2

メールマガジン

●農業担い手メールマガジン　※10 月 30 日配信予定

・登録者数：15,000 名（農業経営者を含めた農業関係者の方々を対象）

【11 月は薬剤耐性対策推進月間です！】

「薬剤耐性（AMR）」という言葉をご存知ですか？
細菌感染の治療に用いられる抗菌剤は、私たちの生活に身近な薬のひとつです。抗菌剤の不適切な使用により、抗菌剤が効きにくくなる、または効かなくなることを薬剤耐性といい、薬剤耐性菌が増加すると、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して人の薬剤治療にも影響することが懸念されています。
畜産分野でも動物用医薬品や飼料添加物として使用されており、家畜の健康を維持し良質な畜産物を安定的に生産するためには、獣医師の診断に基づく抗菌剤の適切な使用が必要不可欠です。

生産段階における薬剤耐性対策には、獣医師、畜産農家などの様々な立場にある関係者が連携して、取り組む必要があります。
11 月の薬剤耐性対策推進月間に合わせて、畜産農家のみなさまに取り組んでいただきたい４つのポイントを確認しましょう。
１．適切な飼養衛生管理により感染症を予防し、抗菌剤を使用する機会を減らす。
２．家畜の健康状態を的確に把握し、異状が確認された場合は速やかに獣医師の診察を受ける。
３．獣医師が適切に診断できるように、病歴や病気の経過を詳しく獣医師に伝える。
４．獣医師からの指示に基づき、抗菌剤は用法・用量、使用禁止期間等を守って正しく使用する。治療効果を最大化し、薬剤耐性菌の発生を抑えることにつながる。

YouTube で動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

◇ 畜産生産者の皆さまへ　薬剤耐性菌をご存じですか？（農林水産省公式 YouTube「maffchannel」）（30 秒 ver）
→ https://youtu.be/kgAR6ZIcw-g

◇ 薬剤耐性対策についてはこちら（農林水産省 Web）
→ https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/torikumi.html

◇ お問い合わせ先
農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課（担当：薬剤耐性対策班）
TEL：03-3502-8097（直通）

●e-普及だより　※11 月 16 日配信予定

・登録者：主に都道府県にて普及指導員として働いている方

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

◆11 月は薬剤耐性対策推進月間です！関係者とが連携して薬剤耐性対策に取り組みましょう。【消費・安全局畜水産安全管理課】

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

薬剤耐性（ＡＭＲ）とは、抗菌剤が効きにくくなる、または効かなくなることをいいます。抗菌剤は人の治療だけでなく、畜産分野でも動物用医薬品や飼料添加物として使用されており、家畜の健康を維持し良質な畜産物を安定的に生産するためには抗菌剤の使用は必要不可欠です。

しかしながら、抗菌剤の不適切な使用により薬剤耐性菌が増加すると、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して人の薬剤治療に影響を及ぼすことが懸念されています。

薬剤耐性対策として、日頃の飼養衛生管理、洗浄・消毒の徹底などによる感染症の予防が重要です。普及指導員の皆様におかれましては適切な飼養衛生管理をはじめとした薬剤耐性対策について、畜産農家の皆様にお伝えいただきますようお願い申し上げます。

▼詳細はこちら

（参考 URL）

動物に使用する抗菌性物質について（農林水産省ホームページ）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/torikumi.html

畜産生産者向け薬剤耐性対策普及啓発動画（Youtube）

https://www.youtube.com/watch?v=g_aV3SG8Z-g

※お問い合わせ先

農林水産省　消費・安全局　畜水産安全管理課　薬剤耐性対策班

（０３－３５０２－８０９７）

別紙3

楽しみながら
獣医師を知り
動物と仲良くなろう！

2026 動物感謝デー 20th in JAPAN

World Veterinary Day

20th ANNIVERSARY

ペット同伴 OK

2026 11/14(土) 10:00～16:00



動物との暮らしを考えよう！
ブース展示コーナー



ペットの健康を学ぼう！
獣医師体験コーナー



楽しみながら知ろう！
ステージイベント

上野恩賜公園

（不忍池周辺）
JR・地下鉄・日比谷線「上野駅」下車 徒歩約２分
京成線「京成上野駅」下車 徒歩約１分

入場無料
<雨天決行>

主催：公益社団法人 日本獣医師会
いのちみつめる。いのち育む。

<公式ホームページ>
http://doubutsukansha.jp/
2026 動物感謝デー 検索

2026.6

ー動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。ー

別紙4

農林水産省「消費者の部屋」展示

DŌYAKU QUEST

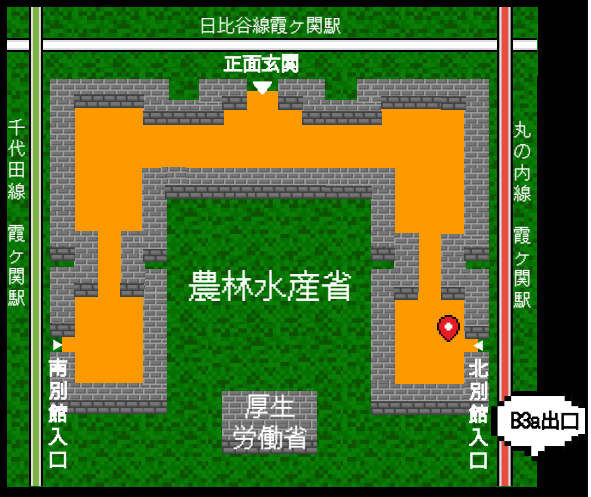


あなたは旅する獣医師。
動物たちの健康を守る旅、ドヤクエしよう！



▼期間
令和８年11月30日（月）－12月４日（金）
10時から17時
※初日は12時から／最終日は13時まで

▼場所
農林水産省北別館１階「消費者の部屋」
東京メトロ霞ケ関駅下車B3a出口すぐ



▼展示内容
動物の健康に関する内容をレトロゲーム風のクイズで楽しくご紹介。
- 獣医師のお仕事紹介
- 薬剤耐性対策（AMR）について
- 動物医薬品検査所について
- 動物用医薬品の展示

▼その他
各種リーフレットや参考冊子をご用意しております。
ストーリークリアでオリジナルステッカーをプレゼント。
※数に限りがございます

▼お問い合わせ
農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課　TEL：03-3502-8097
農林水産省「消費者の部屋」　TEL：03-3591-6529

農林水産省

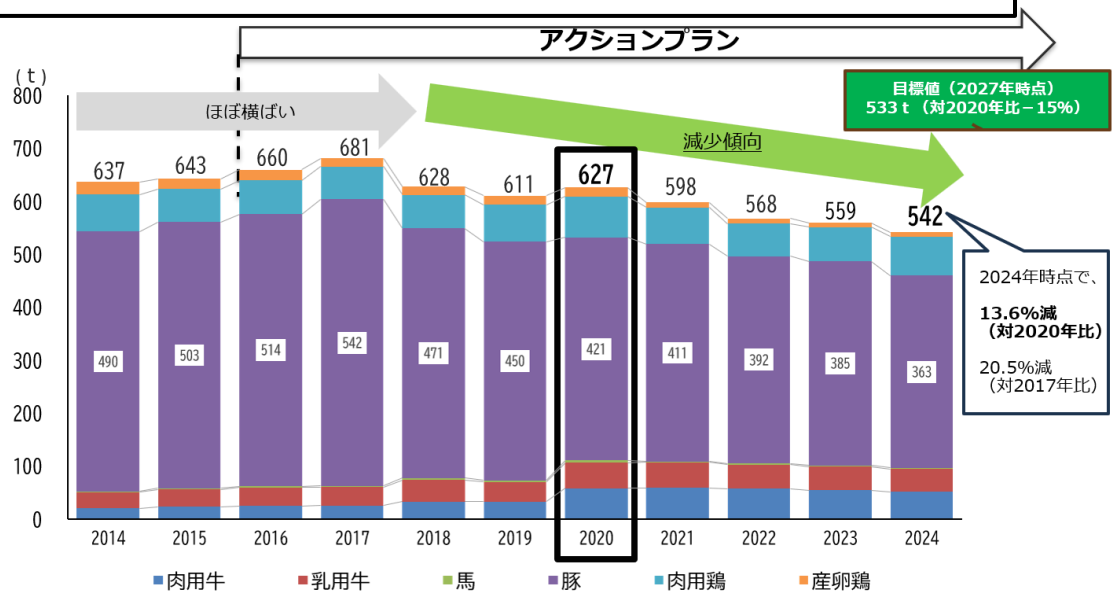
薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの成果指標に対する現状

別紙5

出典：動物医薬品検査所
薬剤耐性モニタリング（JVARM）

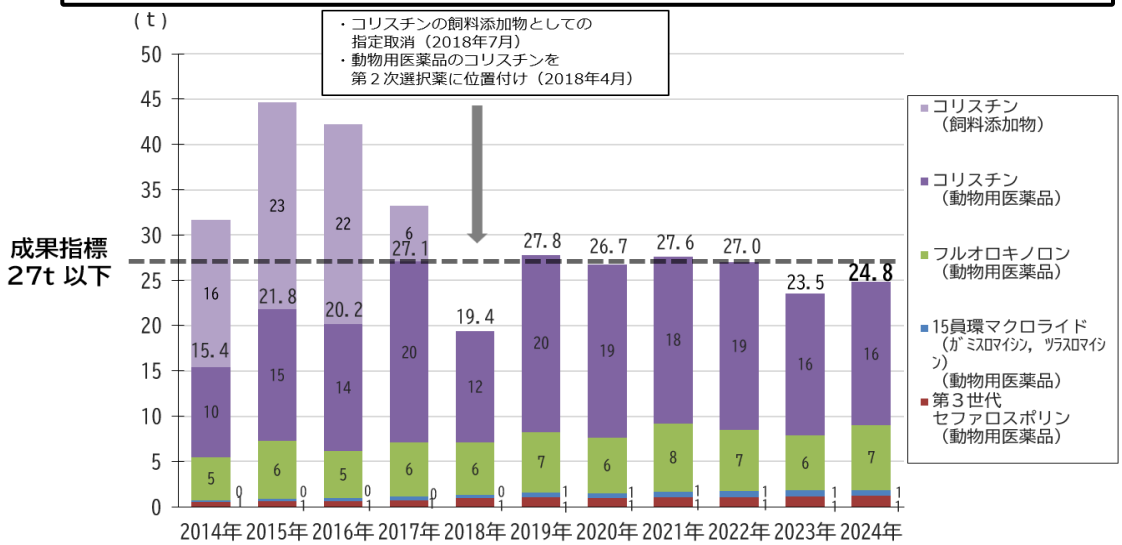
1．畜産分野における抗菌薬の全使用量（販売量）

成果指標：2027年までに2020年の水準（627t）から**15%削減**（533ｔ）



2．畜産分野における第二次選択薬の全使用量（販売量）

成果指標：2027 年の畜産分野の第二次選択薬の全使用量を**27t以下**に抑える。



3．大腸菌の各薬剤に対する耐性率

抗菌剤	動物種	2020	2021	2022	2023	2024	2027 成果指標
第３世代セファロスポリン	牛	0.0	0.0	0.0	1.0	0.6	**≤1%**
	豚	0.0	2.0	0.7	0.0	2.2	**≤1%**
	鶏	4.1	2.1	0.7	3.9	2.8	**≤5%**
フルオロキノロン	牛	0.4	0.0	1.0	0.5	1.2	**≤1%**
	豚	2.2	2.0	3.7	0.7	4.3	**≤2%**
	鶏	18.2	14.5	14.8	16.1	16.2	**≤15%**
テトラサイクリン	牛	19.8	23.8	23.4	20.0	24.1	**≤20%**
	豚	62.4	52.0	55.1	56.3	58.7	**≤50%**
	鶏	52.9	46.2	43.0	53.5	47.9	**≤45%**

犬由来メチシリン耐性 *Staphylococcus pseudintermedius*（MRSP）

日本の病気の犬由来コアグラーゼ陽性ブドウ球菌はほとんどが *Staphylococcus pseudintermedius*（SP）で、そのうちMRSP*が約半分を占めました。

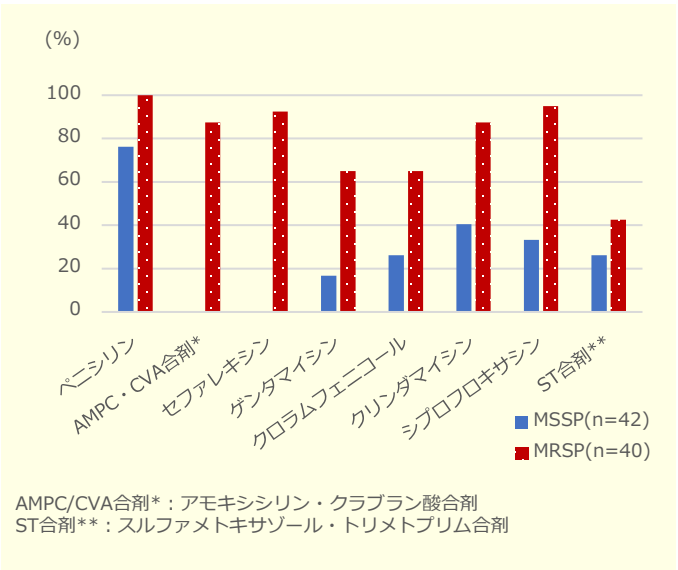
*ペニシリン系抗菌薬のメチシリンに耐性を示すものをMRSP、感受性を示すものをMSSPという。

☑SPは犬の常在菌ですが、皮膚や尿路感染症の原因菌となります。
- 存在しても病気の原因かは正確な診断が必要。
- その他の疾患への抗菌薬の投与によっても影響を受ける（耐性になる）可能性。

☑MRSPは多剤耐性菌です。
- フルオロキノロン系にも高率に耐性。
- 有効な抗菌薬を選択･使用するためには感受性試験の実施が重要。

☑これ以上耐性化を進めないため、抗菌薬以外の治療法を検討しましょう。
- 皮膚や耳では洗浄や消毒を選択肢に。
- 臨床症状がない細菌尿では、治療しないことを選択肢に。

図１：病気の犬由来SPのMRSP/MSSP別耐性率（2024）

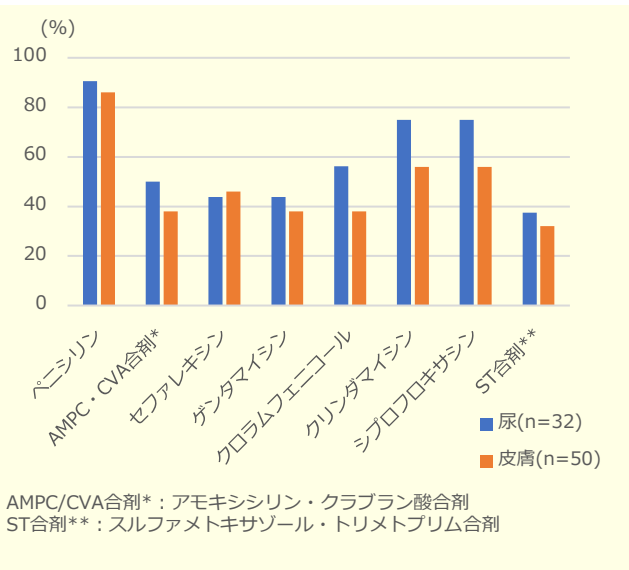


AMPC/CVA合剤*：アモキシシリン・クラブラン酸合剤
ST合剤**：スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤

- MRSPの方がMSSPより多くの薬剤に対する耐性率が高く、耐性のパターンは異なる。

→治療に際しては感受性試験が非常に重要。

図２：病気の犬由来SPの採材部位（尿/皮膚）別耐性率（2024）



AMPC/CVA合剤*：アモキシシリン・クラブラン酸合剤
ST合剤**：スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤

- 皮膚由来SPも尿由来SPも多くの薬剤に高い耐性率を示す。

→抗菌薬以外の治療も検討する必要。

愛玩動物の慎重使用の手引きはこちら↓

抗菌薬一覧はこちら（2023年更新）↓

〇お問い合わせ〇
動物医薬品検査所 動物分野AMRセンター
mail: nval_amr@maff.go.jp

農林水産省

農林水産省による動物分野の薬剤耐性菌の全国的なモニタリング（JVARM）の結果より

猫由来メチシリン耐性コアグラーゼ陽性ブドウ球菌（MRSP及びMRSA）

日本の病気の猫由来コアグラーゼ陽性ブドウ球菌は、*Staphylococcus pseudintermedius*（SP*）と*Staphylococcus aureus*（SA*）が分離されています。日和見感染症を起こし、皮膚や尿路の感染症の原因菌となります。

*メチシリン（感受性試験ではオキサシリンを用います）に耐性を示すものをMRSP又はMRSA、メチシリンに感受性を示すものをMSSP又はMSSAという。

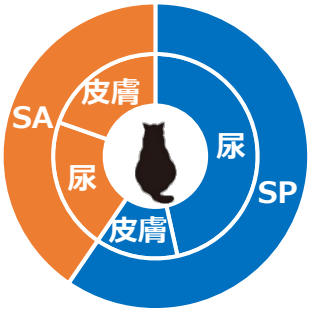
☑MRSP/MRSAは多剤耐性菌です。

- 有効な抗菌薬を選択･使用するためには感受性試験の実施が重要。
- 皮膚や耳では洗浄や消毒を選択肢に。
- 臨床症状がない細菌尿では、治療しないことを選択肢に。

☑院内感染対策も重要です。

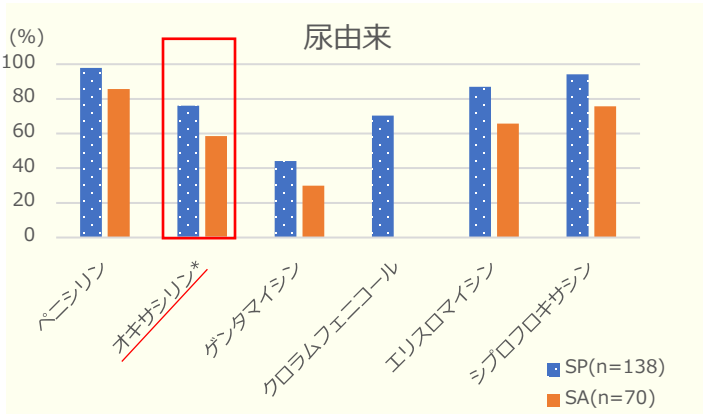
- MRSAは人医療でも大きな問題。動物病院内で広げない対策が必要。

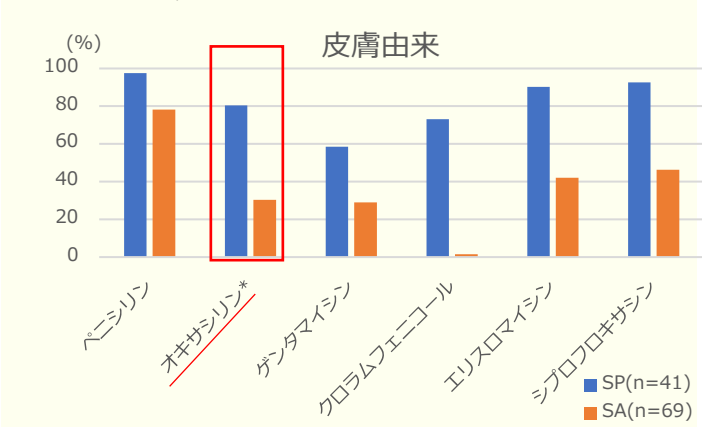
図１：2017年から2024年に病気の猫から分離されたSP及びSA（576株）の菌種及び分離部位の割合



日本の病気の猫由来コアグラーゼ陽性ブドウ球菌は、*Staphylococcus pseudintermedius* (**SP**)と*Staphylococcus aureus* (**SA**)）がともに分離された。

図２：2021年から2024年に病気の猫から分離されたコアグラーゼ陽性ブドウ球菌の採材部位ごとの菌種別耐性率　＊オキサシリン耐性　→MRSA,MRSPと判定





- **SP**はほとんどの薬剤で高い耐性率を示し、耐性が大きく異なる薬剤がある。

  → **SP**と**SA**はグラム染色でも区別がつかないため、感受性試験は重要。

- **SP**のうち**MRSP**は尿・皮膚ともに約8割を占め、**SA**のうち**MRSA**は尿由来で約6割、皮膚由来で約3割（オキサシリン耐性参照）。**MRSP**、**MRSA**は多くの薬剤に耐性。

  →抗菌薬以外の治療の検討が必要。

愛玩動物の慎重使用の手引きはこちら　→

抗菌薬一覧はこちら（2023年更新）→

〇お問い合わせ〇

動物医薬品検査所 動物分野AMRセンター

mail: nval_amr@maff.go.jp

農林水産省

（別記関係団体）

一般社団法人Ｊミルク会長
一般社団法人全国動物薬品器材協会理事長
一般社団法人中央酪農会議会長
一般社団法人日本 SPF 豚協会会長
一般社団法人日本科学飼料協会理事長
一般社団法人日本種鶏孵卵協会事務局長
一般社団法人日本小動物獣医師会会長
一般社団法人日本食鳥協会会長
一般社団法人日本植物防疫協会理事長
一般社団法人日本養鶏協会会長
一般社団法人日本養豚開業獣医師協会代表理事
一般社団法人日本養豚協会会長
一般社団法人日本養蜂協会会長
公益社団法人全国農業共済協会（NOSAI 協会）会長
公益社団法人畜産技術協会会長
公益社団法人中央畜産会会長
公益社団法人日本獣医師会会長
公益社団法人日本動物病院協会会長
公益社団法人日本動物用医薬品協会理事長
協同組合日本飼料工業会会長
全国鮎養殖漁業組合連合会会長
全国開拓農業協同組合連合会会長
全国漁業協同組合連合会会長
全国畜産農業協同組合連合会会長
全国肉牛事業協同組合理事長
全国農業協同組合連合会代表理事理事長
全国農薬協同組合理事長
全国酪農業協同組合連合会会長
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門所長
農場管理獣医師協会会長
農薬工業会会長
日本養鶏農業協同組合連合会会長
日本養鰻漁業協同組合連合会会長